

クラインガルテンだより

■発行／松本市指定管理者 四賀むらづくり株式会社 〒399-7404 長野県松本市取出481-1 TEL.0263-64-4447 FAX.0263-88-4447 令和4年1月1日 ■印刷／櫛プラルト

2022 新春号

Vol.45

新春

四賀近隣

とっておきの

場所

新春の北アルプス北部展望 左から針ノ木岳、蓮華岳、爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳

長峰山パノラマパーク!

安曇野市にある公園の一つで、国道19号線、明科東栄町の信号から四賀方面に入り、15分ほどで展望台に到着します。表紙の写真もここからです。



明けましておめでとうございます。本年も皆さまにはご家族お揃いで初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

一昨年からの新型コロナウイルス禍で、あらゆる面にわたり行動の制限等を余儀なくされてきました。師走から世界各地でまた、新たな変異株が拡大し、予断を許せない状況に。依然新しい生活様式の継続が必要でしょう。

相次ぐ年間イベントの中止で新しいガルテナーさんたちとの交流ができないままですが、今後も感染予防に十分気を配りながら、一日も早い収束を望みつつ過ごしたいものです。

日本列島・南から北へ！北から南へ！



1993年に全線開通してから28年余り。長野自動車道は岡谷JCTと更埴JCTで中部と県北を繋ぎ、いまやその効果は計り知れないほどです。東海圏から北陸圏までの物流や人の往来に寄与しています。また緊急時の対応にも使われたりと、沿線圏域に福祉的効



果をもたらしています。長野方面に向かう車窓からは「公田富士」と呼ばれる四賀を代表する虚空蔵山を右手に望めるため、通過車両の人たちから山の名前の問い合わせもあるそうです。朝夕のバス停には通勤・通学に利用する人々の姿があつて、地域で重宝がられています。



行先	時刻	行先	時刻
長野行		長野行	
みずすハイウェイバス		松本-長野	
5			
6		54	
7		24	
8			
9	04		
10	49	24	
11	49		
12		24	
13		24	

四賀

ガルテン歳時記

秋の王様「マツタケ」の話題に沸いたのも束の間で、昨秋の後半は雨不足で干ばつ気味でした。葉物野菜の高騰は一時期大変でしたが、どうやら持ち直して野沢菜や白菜も順調に漬物になりました。今年は4年ぶりの寒い冬とか！

常念岳の早めの初冠雪は何を意味するのでしょうか。

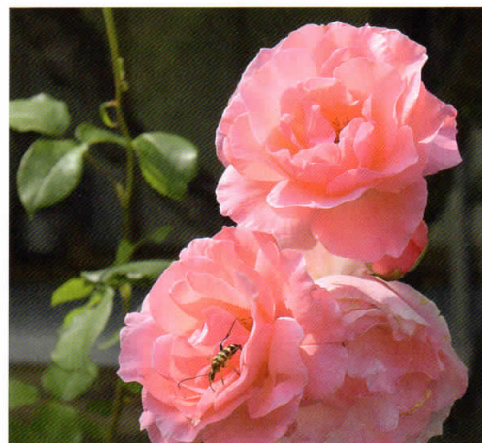


この見事なりんごは昨秋のシーズン。実りのりんご畑です。昨春の信州ではひどい凍霜害に見舞われて、農家の人たちは散々な思いで果樹栽培に取り組み、ようやく収穫にこぎつけたようです。自然界には勝てません。



秋の日差しを受けて

たわわに実るりんご「フジ」



庭のバラを切り花にして花瓶にさしてみました。香りは薄いけれど、虫たちが飛び交う季節に思いを馳せることができますよ。

薔薇の香りに思いを馳せて切り花で春を待つ楽しみ

土に親しむ極上の田舎生活 畑の虫たちと共に生きる！

坊主山クラインガルテン 221号

吉田 英男さん(80)・京子さん(74)夫妻

コロナ禍にあつて至福の時を過ごす

横浜から来て、クラインガルテン生活18年目という吉田さん。「これほど長く続けられるとは、自分でも驚いている」とほほ笑みます。吉田さん曰く「もともと都会より田舎に住みたいという思いがあり、40代に市民園

を8年間経験しました。妻の実家が上田市ということもあって、現役引退後は長野県内が終の棲家と考えていたのですよ。入居が決まって慌ただしく63歳にして自動車運転免許証を取得してね。それから順調に田舎暮らしがスタートしたのです」と照れながら話します。

こぼれを頂戴して共存共栄の域に入らざるを得ないとお話でした。でも自ら作った無農薬野菜の美味さには感動さえ覚えるのとです。

コロナ禍にあつて往来の少ない奥さんですが、電話確認でお互いが健康であれば、と納得しながら吉田さんは野菜づくりで元気を養い、健康管理と思いつながら、一時間ほどのウォーキングと30分ほどの自己流室内体操を日課とされて

で胸がいっぱいになると満面の笑みで語ります。

「おいしい野菜づくりの秘訣を長年参考書やネットで調べるのですが、結局は健康な土づくりが基本だと行き着いたんですよ。いつも耕運機を使わず、スコップと鍬で耕し、昨年暮れには畝だけでなく全面的に掘り起こして枯葉と有機肥料を入れました。体力を消耗したけれど今春の結果が楽しみです」と自信たっぷりでした。地元野菜づくりの人たちも見習いたいくらいです。

今年はコロナ禍が収まり、自由に往来ができて仲間との交流を楽しみたい、と語ってくれた吉田さんでした。本当にそう思いますね。

四賀ガルテナーの楽しみ
ガルテンは何してん!?



220日以上は滞在し、振り返れば生涯の自由時間の中で一番長くここにいます。地域活動に忙しい奥さんの来園もコロナ禍でさらに少なくなっているため、ここで覚えた炊事・洗濯もしっかりと身に付き、有機無農薬野菜の作付け・収穫が悦に入っている様子です。また、毎年野菜は無農薬に徹しているため虫との闘いに根気負けして、虫のお



いるようです。たまに奥さんが来て作ってくれる手料理は、さすがに格段においしく、お腹はもちろん感謝の気持ち





行って
みよう!

クラインガルテンを拠点に出かけるイベント案内

Event information

企画展「山の繪—山岳風景画 さんぱく収蔵コレクション—」

開催日 1月15日(土)～3月27日(日)
ところ 大町市 市立大町山岳博物館 特別展示室
お問い合わせ 山岳博物館 ☎0261-22-0211



大下藤次郎「六月の穂高岳」(大町山岳博物館提供)

山岳博物館の収蔵作品展。北アルプスの山々を題材に、明治時代以降に描かれた秀作約20点。1月16日(日)、2月20日(日)、3月20日(日)は各日10時と14時30分から作品を解説する「ミュージアムガイド」を開催。観覧料は大人450円、高校生350円、小中学生200円。

国宝松本城氷彫フェスティバル2022

開催日 1月21日(金)～23日(日)
ところ 松本市 松本城公園ほか
お問い合わせ 国宝松本城氷彫フェスティバル2022実行委員会事務局(松本市観光プロモーション課)
☎0263-34-3000

全国屈指の選手が松本に集結する「氷の祭典」。松本城公園のほか、まちなかに氷像を展示予定。あわせて松本城イルミネーションが氷彫フェスティバルを演出します。

福間洸太郎 ピアノリサイタル・共鳴する天才たち

開催日 1月22日(土)15:00開演(14:00開場)
ところ 松本市音楽文化ホール
お問い合わせ 音楽文化ホール ☎0263-47-2004

「真のヴィルトゥオーゾ」と呼ばれる福間洸太郎の演奏会。イタリア語で、完璧な超絶技巧の持ち主を称える言葉です。今回は、ショパン「バラード第2番」、シューマン「クライスレリアーナ」ほかを演奏。チケットは一般4000円、U-25(25歳以下)2000円。全席指定。

田中清代絵本原画展

開催日 1月25日(火)まで開催中(木曜、1月7～14日
冬季休館)
ところ 安曇野市 絵本美術館 森のおうち
お問い合わせ 森のおうち ☎0263-83-5670

2020年の日本絵本賞大賞を受賞した「くろいの」をはじめ、「おばけがこわいことこちゃん」「トマトさん」の3作の原画全作品を展示。「バーナデット・ワッツ絵本原画展」も同時開催。観覧料は大人800円、小・中学生500円、3才以上250円、3歳未満無料。

冬の常設展 豊科近代美術館コレクション展

開催日 3月31日(木)まで開催中(月曜、祝日の翌日、
12月27日～1月4日休館)
ところ 安曇野市 豊科近代美術館 1階第3展示室
お問い合わせ 豊科近代美術館 ☎0263-73-5638

※イベントは、発表時より変更されている場合があります。事前にご確認ください。※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の状況により中止あるいは延期の可能性があります。あらかじめご承知おきのほど、よろしくお願いいたします。

彫刻家 篠田守男-Subconscious-

開催日 1月30日(日)まで開催中(月曜、祝日の翌日、
12月31日まで休館)
ところ 安曇野市 碌山美術館
お問い合わせ 碌山美術館 ☎0263-82-2094

現代美術の第一線で活躍し続け、90歳を迎えた現在も制作意欲の衰えない篠田守男の初期の石彫や最新作など、作品と資料約50点を展示。入館料は大人700円、高校生300円、小中学生150円。

松本平の御柱展

開催日 1月30日(日)まで開催中(月曜、12月29日～1
月3日休館)
ところ 松本市 重要文化財 馬場家住宅
お問い合わせ 馬場家住宅 ☎0263-85-5070

馬場家住宅のある松本市内田地区に伝わる、道祖神の祭り行事「御柱」。企画展では、実際に使われた飾り物「おんべ」や、写真パネルなどを展示して、祭りの様子を紹介します。入館料は大人310円、中学生以下・松本市内在住の70歳以上は無料。

田淵行男写真展 私の山岳写真

開催日 2月13日(日)まで開催中(月曜、祝日の翌日、
12月27日～1月4日休館)
ところ 安曇野市 田淵行男記念館1階展示室
お問い合わせ 田淵行男記念館 ☎0263-72-9964

日本を代表する昆虫生態研究家で自然写真家としても知られる田淵行男の記念館。収蔵作品展。1月16日(日)までは「アシナガバチ」の写真展も同時開催。入館料は高校生以上310円。

企画展「藍」染・織物展

開催日 3月13日(日)まで開催中(月曜、12月29日～
1月3日休館)
ところ 松本市 松本民芸館
お問い合わせ 松本民芸館 ☎0263-33-1569

日本人の暮らしに溶け込んでいた「藍」に着目し、染・織物や、各地の名もなき職人たちが手仕事で作った庶民の普段着などを展示。使うほどに味わい深い「藍」の魅力を感じる品々が並びます。観覧料は大人310円、中学生以下・70歳以上の松本市民は無料。

豊科近代美術館の主要収蔵作家・高田博厚をはじめ信州や安曇野にゆかりのある作家の新収蔵作を中心に展示。展示作家は飯沼一道、木村辰彦、小林邦、斎藤俊雄、高山晃。観覧料は一般520円、高大生310円。